

平成26年5月 東京地区百貨店売上高概況

平成26年6月18日

I. 概況

1. 売上高総額	1,168億円余
2. 前年同月比	-4.3% (店舗数調整後/2か月連続マイナス)
3. 店頭・非店頭の増減	店頭-2.6%(90.2%) : 非店頭-17.9%(9.8%) ()内は店頭・非店頭の構成比
4. 調査対象百貨店	13社 25店 (平成26年4月対比±0店)
5. 総店舗面積	856,760㎡ (前年同月比:-4.7%)
6. 総従業員数	19,247人 (前年同月比:-0.8%)
7. 3か月移動平均値 (店舗数調整後)	10-12月 3.0%、11-1月 4.2%、12-2月 4.2%、 1-3月 12.3%、2-4月 7.1%、3-5月 4.3%

[参考] 平成25年5月の売上高増減率は5.1%

【5月売上の特徴】

- (1) 東京地区の入店客数は、地方物産展や母の日等に関連した販促企画、ゴールデンウィーク期間中におけるファミリー催事等の集客策を積極展開したことで、ほぼ前年並み(前年同月比0.4%)に推移した。
- (2) 主力の衣料品(-4.3%)は全体動向と同水準で堅調に推移したが、特に紳士(+0.4%)については、クールビズ需要でジャケット、パンツ、シャツ等が活発に動いたことに加え、カスタマイズ・ニーズを受けたスーツ等の単価アップを示す結果となった。
- (3) 全国同様に前月二桁減の化粧品(-4.0%)は、新商品の投入や好天によるUV対策の高まりを受けて、スキンケア商材を中心に需要の戻りが見られ、大幅な改善傾向を示した。
- (4) 食料品(-1.4%)については、ゴールデンウィーク期間中の行楽需要、物産展等食品催事の積極展開、複数店舗における食品売場改装などを背景に、菓子(+0.6%)と惣菜(-0.4%)が牽引する形で堅調に推移した。
- (5) 東京地区の6月中間段階(6月15日)までの商況は、上旬まで気温低下や雨模様の天候などが影響して、前年比約3~4%減で推移している。

【要因】

- (1) 営業日数増減 31.0日 (前年同月比±0.0日)
- (2) 入店客数増減 (回答店舗数で見る傾向値/前年同月比/有効回答数18店舗)
①増加した: 8店、②変化なし: 6店、③減少した: 4店
- (3) 5月歳時記(GW、子供の日、母の日)の売上 (同上/有効回答数13店舗)
①増加した: 2店、②変化なし: 9店、③減少した: 2店

東京地区百貨店 売上高速報 2014年05月

※店舗数調整後 ()が調整前

	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率 (%) ※
総 額	116,806,090	100.0	-4.3 (-5.9)
紳士服・洋品	11,707,858	10.0	0.4 (-0.7)
婦人服・洋品	24,067,970	20.6	-6.4 (-8.4)
子供服・洋品	2,432,180	2.1	-3.4 (-4.0)
その他衣料品	2,098,859	1.8	-4.2 (-5.9)
衣 料 品	40,306,867	34.5	-4.3 (-5.9)
身のまわり品	16,813,699	14.4	-3.9 (-6.4)
化粧品	6,754,331	5.8	-4.0 (-4.3)
美術・宝飾・貴金属	6,311,647	5.4	-15.7 (-19.2)
その他雑貨	5,363,608	4.6	-4.6 (-4.6)
雑 貨	18,429,586	15.8	-8.5 (-10.0)
家具	1,537,103	1.3	-15.6 (-23.5)
家電	777,841	0.7	-14.6
その他家庭用品	4,152,271	3.6	-6.7 (-7.5)
家 庭 用 品	6,467,215	5.5	-10.0 (-12.7)
生鮮食品	4,540,453	3.9	-2.1 (-2.8)
菓子	7,253,506	6.2	0.6 (-0.4)
惣菜	6,191,997	5.3	-0.4 (-1.3)
その他食料品	7,882,773	6.7	-3.6 (-4.0)
食 料 品	25,868,729	22.1	-1.4 (-2.2)
食堂 喫茶	3,150,403	2.7	-1.9 (-2.6)
サービス	2,448,797	2.1	5.5
そ の 他	3,320,794	2.8	-2.5 (-2.9)

注) 構成比は計算処理上必ずしも100%にはなりません。
本統計には消費税は含まれておりません。

対前年増減(-)率 (%)

※

商品券	2,577,176 千円	-7.2 (-7.7)
従業員数	19,247 人	-0.8
店舗面積	856,760 m ²	-4.7

営業日数	31.0 日	前年	31.0 日
------	--------	----	--------

Ⅱ. 商品別の動き

主要5品目は、2か月連続で全品目がマイナスとなった。家庭用品が先月に引き続き二桁マイナスとなったが、他の4品目は一桁マイナスと回復がみられた。また、紳士服・洋品と菓子が2か月ぶりにプラスとなり、その他食料品は先月と同水準、その他の品目は家具以外はすべて先月の伸びを上回った。

【商品別売上前年比の寄与度とトレンド】

商品別	売上前年比	寄与度	トレンド
総額	-4.3	—	2か月連続マイナス
紳士服・洋品	0.4	0.0	2か月ぶりプラス
婦人服・洋品	-6.4	-1.4	2か月連続マイナス
子供服・洋品	-3.4	-0.1	2か月連続マイナス
その他衣料品	-4.2	-0.1	2か月連続マイナス
衣料品	-4.3	-1.5	2か月連続マイナス
身のまわり品	-3.9	-0.6	2か月連続マイナス
化粧品	-4.0	-0.2	2か月連続マイナス*
美術・宝飾・貴金属	-15.7	-1.0	2か月連続マイナス*
その他雑貨	-4.6	-0.2	2か月連続マイナス*
雑貨	-8.5	-1.4	2か月連続マイナス
家具	-15.6	-0.2	2か月連続マイナス
家電	-14.6	-0.1	2か月連続マイナス
その他家庭用品	-6.7	-0.2	2か月連続マイナス
家庭用品	-10.0	-0.6	2か月連続マイナス
生鮮食品	-2.1	-0.1	2か月連続マイナス*
菓子	0.6	0.0	2か月ぶりプラス*
惣菜	-0.4	0.0	2か月連続マイナス*
その他食料品	-3.6	-0.2	2か月連続マイナス*
食料品	-1.4	-0.3	2か月連続マイナス
食堂喫茶	-1.9	0.0	2か月連続マイナス
サービス	5.5	0.1	6か月連続プラス
その他	-2.5	-0.1	2か月連続マイナス
商品券	-7.2	-0.2	37か月連続マイナス

(注) 化粧品、美術・宝飾・貴金属、その他雑貨、生鮮食品、菓子、惣菜、その他食料品については2006年1月から細分化した。

お問い合わせは、日本百貨店協会 森・西田まで
 TEL 03-3272-1666 ホームページアドレス <http://www.depart.or.jp>